

学期	月	時限	教科書ページ	項目(タイトル)	節の主題	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
第1部 現代世界の系統地理的考察						
第1章 自然環境						
1学期	4	1	p.6-7	序節 地球環境と人間		
1学期	4	2-8	p.8-31	1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているのだろうか。	①地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。 ②地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	5	9-15	p.32-61	2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素は地域によって異なるため、地球上の生態系はさまざまである。気候の違いは、どのような要因で生まれるのだろうか。また、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。	①気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。 ②気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	5	16	p.62-67	3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境がみられる。日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。	①日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。 ②日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	5	17-20	p.68-79	4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	地球上では、さまざまな環境問題が発生している。地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。	①さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて理解している。 ②さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 資源と産業						
第2章の目標 ①資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 ③資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。						
1学期	6	21-25	p.80-97	1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	農林水産業は、自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた。農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるのだろうか。	①自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて理解している。 ②自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	6	26-27	p.98-103	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか。	①食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解している。 ②食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	6	28-30	p.104-115	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがある。エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのだろうか。	①世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのようにして生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。 ②世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのようにして生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	7	31-32	p.116-121	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方があった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	①これまでの資源・エネルギー問題の考え方に、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて理解している。 ②これまでの資源・エネルギー問題の考え方に、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	7	33-37	p.122-139	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業は、さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた。世界の工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのだろうか。	①さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。 ②さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
1学期	7	38-39	p.140-145	6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業	経済が発展すると、物やサービスへの需要が高まるため、第3次産業が主力の産業となる。第3次産業の現状はどのようになっているのだろうか。	①経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて理解している。 ②経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 交通・通信と観光、貿易						
第3章の目標 ①交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解すること。 ②交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 ③交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。						
第3章の評価規準 ①交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。						
2学期	9	40-41	p.146-151	1節 交通・通信 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	交通と通信の発達によって、社会や経済は大きく変化した。なぜ、交通網や通信網の発達には、傾向や地域性、地域間格差が現れているのだろうか。	①社会や経済を大きく変えた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて理解している。 ②社会や経済を大きく変えた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	9	42-43	p.154-159	2節 観光 1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化	交通と通信の発達などをきっかけとして、日本では、訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みがみられる。観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのだろうか。	①日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解している。 ②日本での訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

学期	月	時限	教科書ページ	項目(タイトル)	節の主題	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2学期	9	44-45	p.160-165	3節 貿易と経済圏 1 世界の貿易と地域間格差 2 貿易の自由化と経済連携 3 日本の貿易	私たちの日常生活は、貿易なしには成り立たない。世界の貿易は拡大が続いているが、地域性や地域間格差が現れてきている。それはなぜなのだろうか。	①拡大が続いている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて理解している。 ②拡大が続いている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③貿易と経済圏について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第4章 人口、村落・都市						
2学期	9	46-47	p.166-167	1節 人口 1 世界の人口 2 人口の移動	世界全体の人口は現在も増加し続けているが、国や地域によってはさまざまな理由で減少に転じている場合もある。世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのだろうか。	①増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて理解している。 ②増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	9	48-49	p.170-177	2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題	社会情勢や文化などのさまざまな要因によって、世界各国・各地域の人口は、規模や分布が異なっている。先進国と発展途上国では、出生率の高低や高齢化の進行に、どのような違いが表れているのだろうか。	①社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。 ②社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	10	50-52	p.178-187	3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏の拡大と都市の構造	人々はどのような場所に居住し、村落や都市を発達させてきたのだろうか。その立地や形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、また、国や地域によって異なる地域性についてとらえよう。	①村落や都市の立地や発達、形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、国や地域によって異なる地域性について理解している。 ②村落や都市の立地や発達、形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、国や地域によって異なる地域性について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③村落と都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	10	53-55	p.188-197	4節 都市・居住問題 1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題	世界の都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのだろうか。また、日本の都市にはどのような課題があり、それらを解決するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	①世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。 ②世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第5章 生活文化、民族・宗教						
2学期	10	56-57	p.198-201	1節 衣食住 1 世界の衣服と食生活 2 世界の住居と衣食住の画一化	伝統的な衣食住の生活文化は、その土地の自然環境や社会環境などの地域的特色を反映して形成されてきた。これらの生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているのだろうか。	①自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。 ②自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③衣食住について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	10	58-60	p.202-211	2節 民族・宗教と民族問題 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生に向けた取り組み	世界には、さまざまな民族が存在し、それぞれの言語を話し、多様な宗教を信仰している。民族や宗教の独自性はどのようにとらえることができ、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのだろうか。	①世界のさまざまな民族の言語や宗教の独自性、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているかについて理解している。 ②世界のさまざまな民族の言語や宗教の独自性、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③民族・宗教と民族問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	10	61-63	p.212-220	3節 国家の領域と領土問題 1 現代世界と国家 2 領土問題と解決への取り組み 3 日本の領域と領土をめぐる問題	国家の領域は、山脈や河川、経線や緯線などさまざまな境界線で区分されている。領域が定められたり、その領域が変更されたり、国家が新たに誕生したりすることで、どのような問題が起こっているのだろうか。	①国家の領域はさまざまな境界線で区分されていること、領域が定められたり領域が変更されたり国家が誕生したりすることで問題が起こっていることについて理解している。 ②国家の領域はさまざまな境界線で区分されていること、領域が定められたり領域が変更されたり国家が誕生したりすることで問題が起こっていることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国家の領域と領土問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2部 現代世界の地誌的考察						
第1章 現代世界の地域区分						
2学期	11	64	p.222-225	1節 地域区分 1 地域区分の意義と指標	①世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解すること。 世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけること。 ②世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現すること。 ③現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。	①世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解している。 世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身につけている。 ②世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域のとらえ方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③現代世界の地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 現代世界の諸地域						
2学期	11	65	p.226-227	序節 地域の考察方法 1 地誌的な考察方法		
2学期	11	66-69	p.228-237	1節 中国 -項目ごとに整理して考察 1 中国の政治体制と多様な民族 2 中国の食生活と農業・水産業 3 中国の工業化と海外進出 4 経済発展に伴うさまざまな課題	第二次世界大戦後の中国は、経済発展が著しく、世界経済への影響も大きくなってきている。この節では、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理し、急速な経済発展に伴う地誌的課題について考察しよう。	①工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	11	70-71	p.238-243	2節 韓国 -項目ごとに整理して考察 1 韓国の歴史と生活文化 2 産業の発展と生活の変化	日本と地理的な距離が近い韓国は、急速な経済成長を遂げている。この節では、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。	①日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③韓国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

学期	月	時限	教科書ページ	項目(タイトル)	節の主題	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
2学期	11	72 74	p.244-253	3節 ASEAN諸国 -項目ごとに整理して考察 1 ASEAN諸国の歴史と文化・民族 2 ASEAN諸国の農業とその変化 3 ASEAN諸国の工業とその発展 4 ASEANの変化と課題	古くから農業が盛んなASEAN諸国は、近年急速に工業化が進んでいる。この節では、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。	①古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ASEAN諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	12	75 77	p.254-261	4節 インド -経済成長に関連づけて考察 1 急速な経済成長を支えた産業の発展 2 増加する人口と農村の変化 3 インド社会の変化と経済格差の拡大	インドは、近年、急速に経済が成長している国の一つである。この節では、インドの産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて考察しよう。	①近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて理解している。 ②近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③インドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	12	78 80	p.262-269	5節 西アジアと中央アジア -地域を比較して考察 1 イスラームと人々の生活文化 2 交易の歴史と乾燥地域の農業 3 豊富な資源を生かして進められる開発	西アジアと中央アジアには、自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある。この節では、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を考察しよう。	①自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2学期	12	81 83	p.270-277	6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ -地域を比較して考察 1 歴史的な背景によって形成された多様な文化 2 他地域との結びつきと人々の生活の変化 3 一次産品への依存とそれがもたらす課題	北アフリカとサハラ以南アフリカは、アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある。この節では、二つの地域を比較するとともに、一次産品への依存がもたらす地球的課題を考察しよう。	①アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。 ②アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3学期	1	84 87	p.278-289	7節 EU諸国 -項目ごとに整理して考察 1 EUの成り立ちと結びつき 2 ヨーロッパの多様な農業と政策 3 移り変わるEUの工業 4 EU拡大による影響と課題	ヨーロッパは、二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合を進めている。この節では、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して考察しよう。	①二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③EU諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3学期	1	88 89	p.290-295	8節 ロシア -国家体制の変化に関連づけて考察 1 ロシアの成り立ちと体制変化 2 体制変化が産業にもたらした影響と課題	ロシアは、かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めている。この節では、ロシアの国家体制の変化に着目して工業や農業の特徴をとらえ、資源・エネルギーをめぐる地球的課題を考察しよう。	①かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。 ②かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3学期	1	90 93	p.296-3	9節 アメリカ合衆国 -項目ごとに整理して考察 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 3 進展する科学技術と産業 4 多民族社会と移民増加に伴う課題	アメリカ合衆国は移民国家としての多様性をもち、それがこの国の原動力にもなってきた。この節では、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理しつつ、多民族社会や移民に関する地球的課題を考察しよう。	①移民国家としての多様性をもち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。 ②移民国家としての多様性をもち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3学期	2	94 96	p.308-3	10節 ラテンアメリカ -歴史的背景と関連づけて考察 1 ヨーロッパの影響が強い社会 2 大土地所有制と農業の変化 3 工業化の進展と経済発展	ラテンアメリカは、かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっている。この節では、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて考察しよう。	①かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。 ②かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3学期	2	96 99	p.316-322	11節 オーストラリアとニュージーランド -国を比較して考察 1 移民の歴史と多文化社会 2 自然の恵みを生かして発達した産業 3 強まるアジア・太平洋圏との結びつき	オーストラリアとニュージーランドには、南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられる。この節では二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を考察しよう。	①南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。 ②南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像						
第1章 持続可能な国土像の探究				第1章の目標 ①現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解すること。 ②現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現すること。 ③持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。		第1章の評価規準 ①現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 ②現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 ③持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。
3学期	3	10 0	p.324-327	1節 将来の国土の在り方 1 日本の強みと地理的な課題	日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいのだろうか。	①日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいのかについて理解している。 ②日本の強みをより生かせる将来について考え、持続可能な社会を構築していくには、どのようなことに取り組めばよいのかについて、多面的・多角的に探究し、表現している。 ③将来の国土の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。
3学期	3	10 1 10 5	p.328-335	2節 持続可能な日本の国土像の探究 1 課題の把握 2 課題の追究 3 課題の解決	現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのだろうか。	①現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのかについて理解している。 ②現代の日本の社会が抱える地理的な諸課題を解決し、持続可能な社会を目指すためには、どのような国土の在り方が望ましいのかについて、多面的・多角的に探究し、表現している。 ③持続可能な日本の国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。